

学校法人天理大学
平成18年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成18年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	80	320	313
	人間関係学科	80	320	349
	計	160	640	662
文学部	国文学国語学科	40	160	182
	歴史文化学科	50	200	232
	計	90	360	414
国際文化学部	アジア学科	150	600	652
	ヨーロッパ・アメリカ学科	200	800	750
	日本学科	募集停止	0	1
	朝鮮学科	募集停止	0	19
	中国学科	募集停止	0	22
	タイ学科	募集停止	0	2
	インドネシア学科	募集停止	0	2
	英米学科	募集停止	0	11
	ドイツ学科	募集停止	0	3
	フランス学科	募集停止	0	7
	ロシア学科	募集停止	0	8
	イスパニア学科	募集停止	0	11
	ブラジル学科	募集停止	0	4
	計	350	1400	1492
体育学部	体育学科	170	※ 690	867
総合計		770	3090	3435

※ 4年次生：180名

【天理大学大学院】

平成18年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	19

【天理高等学校】

平成18年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1560	1276
定時制課程（第二部）	普通科	108	432	385
	介護福祉科	36	144	131
	計	144	576	516
総 合 計		664	2136	1792

※募集人員は440

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成18年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
天理中学校		200	600	597
天理小学校		※ 125	750	596
天理幼稚園		100	200	112

※募集人員は若干名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 551名

(2) 役員・教職員の人数

平成19年3月31日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			63	25	104
天理大学		158	204	71	17	450
天理図書館				44	17	61
おやさと研究所		6		3	2	11
天理参考館				34	1	35
天理高等学校(第一部)		72	8	36	78	194
天理高等学校(第二部)		38	1	27	51	117
天理中学校		33	6	6	12	57
天理小学校		28		5	2	35
天理幼稚園		7		3	1	11
合 計	16	342	219	292	206	1075

2. 事業の概要

平成18年3月、理事長諮問機関「十年ひとふし委員会」が創立80周年を迎えた天理大学の改革について答申をまとめました。答申を受けて理事長の下で重点的に取り組むべき項目を検討し、大学に対してその実施に向けた検討を要請しました。要請の内容は、学生の確保、学生の教育、卒業後の進路開拓を一貫した形で行う体制の強化を軸にしたもので、大学で検討が進められています。

事務組織についても、法人事務局と大学事務局の連携を強化するべく再調整を行い、平成18年6月に新しい事務局体制を整えました。これにより学校経営と教育研究の充実を支える体制が強化されています。

天理高等学校・天理中学校は、平成20年に創立100周年を迎えます。記念事業等の検討のために委員会を設置して検討を行ってききましたが、記念事業の概要が決定しました。次年度から、高等学校の体育館の建設、中学校の正門の設置を進めて行くほか、記念事業募金も実施することになっています。

天理スポーツの強化については、その1つとして大学の野球部寮を建設することとし、平成19年1月に起工式を行いました。また、事務組織に天理スポーツ強化推進室を新設するとともに、理事長の下に天理スポーツ強化推進懇談会を設け、強化策の検討を開始しました。栄養サポート、医科学サポートについては、具体化に向けて試行的プロジェクトを実施しています。

学校経営を取り巻く環境は年々厳しくなっていますが、法人と各学校が一手一つになり、建学の精神の発揚、有為な人材の輩出に向け、さまざまな面において改善の努力を続けています。

以下、平成18年度の各学校の主な事業を報告します。

【法人事務局】

ホームページ作成システムの更新などの広報面、各種職員研修の実施や高年齢者再雇用制度の導入などの人事面、財務シミュレーションなどの経営面、また情報化の推進などについて、法人事務局各部で検討を行い、順次改善を行っています。

【天理大学】

<大学改革・中長期計画>

学長のリーダーシップをさらに発揮できるようにするため、平成18年4月より副学長制度を敷きました。また、法人・大学一体化をより一層推進する上から6月に大学の事務機構を法人事務機構と同時に一部改組しました。

理事長諮問機関「十年ひとふし委員会」の答申を受けて、8月に理事長より『「十年ひとふし委員会答申書」具体化推進のための要請（その1）』が提示され、「アドミッションポリシー（求める人材像）・教育目標・養成する人材像の明確化」・「天理大学セメスター制度の実施」の具体化に向けて早急に取り組むよう要請を受けました。教務委員会からも、より充実したセメスター制度、カリキュラム改定についての提言が出されており、

これらの要請・提言を総体的に検討するため9月に「教育改革推進委員会」を設置しました。現在、急ピッチで検討が進められています。

9月には『要請（その2）』が提示されました。「信仰フォーラム」「1年留学・4年卒業システムの確立」「進路指導体制」「学生募集体制」については3月末を目標に検討し、次年度には内容が確定する見込みです。その他の課題も関係部局等で取り組んでいます。

人事委員会では、教員資格審査の基準について見直しを行い、論文等による研究活動だけではなく教育活動としての学術活動も評価対象に加え、新たな「教員資格審査評価基準」の制定を行いました。

自己点検評価委員会では、認証評価の申請時期を平成20年に設定し鋭意作業にあたりました。次年度初めには「自己点検評価中間報告書」が刊行される予定です。

教育内容・方法の改善に関しては、公開授業を実施し検討会を持ちました。学生による授業評価アンケートは引き続き年2回実施しています。

<教育・研究>

国際シンポジウム「相互行為としての祈り」(Prayer as Interaction)が、9月5日から3日間、姉妹校であるドイツのマールブルク大学と天理大学との共同研究プロジェクトとしてマールブルクにおいて開催され成功裡に終了しました。シンポジウムは、教祖120年祭の記念行事として企画されたものです。

建学の精神に基づき諸準備をすすめてきた「矯正・保護支援課程」が、平成19年4月開設の運びとなりました。これにより、教誨師、保護司などとして矯正および更生保護支援活動を通して地域社会に貢献する人材、また、刑務官、法務教官などの専門職として活躍できる人材を育成することが可能になります。

「健康運動指導士」の養成校認定の申請を行い、認可を受けました。これは、平成19年度より体育系大学が「健康運動指導士」の養成校の認定を受けることが可能となったことに対応するものです。

教員志望の学生が初等中等教育の現場でボランティア活動を行う実習科目「学校教育支援」について、今年度新たに大阪市教育委員会と協定を締結し単位認定が開始されました。

平成13・14年度に続き、「天理大学韓国語科教員免許取得講座」を夏期集中で開講しました。次年度と2年間にわたる開講となります。

本年度よりシラバスをデジタル化し、パソコンによる履修登録の際に画面上で参照できるようになりました。大学のホームページにも掲載し、本学志願者や学外の方の閲覧も可能にしています。

<学生支援>

信仰活動の育成、課外活動の支援、障害をもつ学生の支援をはじめ、天理大学奨学金ほか各種奨学金の取り扱い、下宿やアルバイトの紹介など、学生生活全般の支援を継続して行っています。学生相談室においては、臨床心理士による心理相談を行っています。

<国際交流>

留学生のためのチューター制度を設置し、初来日の留学生がスムーズに留学生生活をスタートできる支援体制を整えました。

留学生に対するホームステイ・パイロットプログラムを年末から年明けの間、試験的に実施しました。次年度は、ホームステイ・ホームビジット制度として本格実施を目指しています。

4月にメキシコ・プエブラ栄誉州立大学と新たに学術交流協定を締結しました。22番目の海外学術交流協定校となります。また、8月にネパールトリブバン大学との協定を改定しました。

本学ニアス島等復興支援委員会は、8月、2004年のインド洋大津波、2005年のスマトラ沖地震で甚大な被害を受けたインドネシアのニアス島（北スマトラ州ニアス県）のモアウォ小学校に校舎1棟を寄贈しました。贈呈式には、「国際参加プロジェクト」に参加した学生たちも同行し、日本の小学生の絵画の贈呈、学生手作りの絵本の贈呈と朗読、および踊りの披露を行いました。また、アチェ州にある国立シア・クアラ大学とアル・ラニーリ国立イスラーム高等学院には図書などを寄贈しました。来年度以降も数年間、メダン市とニアス島での「国際参加プロジェクト」の継続実施およびニアス島とタイの津波被災地への継続的支援を実施する予定です。

<入試・広報>

オープンキャンパスを、7月全学部、8月体育学部、9月人間・文・国際文化学部の3回実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。その他、入試説明会、高校訪問等を昨年度より強化しています。

しかし、大学全入時代の到来に伴い入学志願者の状況は厳しくなっており、国際文化学部の受験機会拡大を図る上から一般選抜<国英型>を新たに設けるなど、平成20年度入試に向けての緊急対策をまとめました。

<就職支援>

18年度も引き続きキャリア教育の充実に向けた取り組みを進めました。入学時には、新入生全員に自己発見レポートを実施して自己の適性を把握させ、大学在学中の目標を設定させています。

また「キャリアデザイナー—人生と職業—」の科目を通して人生観・職業観を育成しています。さらに2・3年次には企業などでの就業体験としての奈良県インターンシップ制度に参加させて職業に対する意識を高めています。

進路就職ガイダンスでは、3年次生の6月中旬から全12回のガイダンスを実施し、自己分析、企業研究、面接対策など就職活動に必要なノウハウを全て習得できるよう支援しています。またCDAの資格を持つキャリアアドバイザーを学外から迎えて、進路就職相談を実施し、個々の学生に対する支援充実に努めています。

<施設・設備>

I Tやマルチメディア活用の更なる充実にむけて、体育学部4教室のマルチメディア化を行いました。また、4号棟P C自習室の機器更新、4号棟・体育学部P C自習室の印刷管理システムの導入、学生情報システムのアカウンド統一、フィルタリングソフトの導入など改善をはかりました。

図書室では、体育学部図書室閲覧室の床改修、閲覧室書架および雑誌架の増設を行いました。また、新規図書システム導入検討のための専門委員会を発足させ、次年度

の導入を目指しています。

キャンパス整備に関しては、昨年度の女子トイレに引き続き、3号棟男子トイレの全面改修を行いました。体育学部キャンパスの陸上競技場についても20年ぶりに全面改修しました。また、野球部寮の新築に向け1月に工事に着手しています。

<地域貢献>

教育・研究の内容と成果を、「公開講座」を始めとする様々な講座を通し、広く一般市民に公開しています。今年度も天理市教育委員会や奈良県社会教育センター、奈良県大学連合等と共催で数多く開催しました。

昨年度スタートの「天理大学サテライト語学教室」(奈良新聞共催)は、9月よりイタリア語コースを加え15言語(18科目)で実施しています。

その他、学外からの要請に応じて、本学教員が講座、講演会、シンポジウムなどに数多く参加しています。

<その他>

ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行っています。

「ふるさと講」は、昭和8年に本学の前身である天理外国語学校の寄宿舎における信仰活動の拠り所としてお許しを戴き、信仰の向上と実践に勤めてきましたが、現在の全学的な信仰活動のうえからは、ちば・かんろだいに参拝させていただくのが本来の姿であると考え、講をお返しすることになりました。平成19年3月12日、講長(学長)はじめ教職員学生が寄り集い、最後の月次祭ならびに春季霊祭をつとめ、14日に神実様を教会本部にお返しいたしました。また、「ふるさと講」にお祀りさせて頂いている霊様は本部祖霊殿に合祀させて頂くことになり、3月16日、教会本部祖霊殿において合祀祭が厳かに催されました。なお、今後のつとめ方等については「ふるさと講検討会」で検討されています。

80周年記念事業の一環として開設された創設者記念館に対して、6月に「創設者記念館運営委員会」を立ち上げ、「建学の精神の学内への滲透」をはかるための展示内容の更新、展示以外の活用方法等について検討を加えていくことになりました。

【天理図書館】

貴重な図書の蒐集、資料保存とともに利用にも寄与しています。

資料の利用面では、教祖120年祭の年を通して「教祖120年祭記念展」を開催し、4月「歌謡」、5月「和歌」、6月「連歌と俳諧」、7月「ものがたり」、8月「奈良絵本」、9月「キリシタン版と勅版」、11月「漢籍」、12月「インキュナブラ」の各月テーマにて文化財指定品等の特別展示を行い、併設して4月から6月までは「日本の古印刷」、7月から12月までは「近世名家の自筆本」の展示を行いました。

また、天理ギャラリー(東京)において5月から6月にかけて「俳諧絵画の美」を開催するとともに、本館では常設展示と10月から11月にかけて開館76周年記念展「江戸時代の西洋学」の展覧会を行いました。それにともない、展覧会・記念展図録と天理図書館報の「ビブリア125号」、「ビブリア126号」を出版しました。

また、西館書庫1階から4階、東館書庫5階から6階までの照明を最新の器具に取り替え、利用環境の改善を行いました。

【おやさと研究所】

専任、兼任、嘱託の研究員が、各個人の専門領域の研究とともに、研究所設立の理念に即した共同研究並びに調査を所外の協力も得て行いました。研究の成果は、毎月の研究報告会、および伝道研究会、宗教研究会での発表や、出版物、公開講座、シンポジウムを通じて、広く共有する機会を設けています。

公開教学講座は、本年度は「天理教のコスモロジーと現代」のテーマで、1月から12月まで毎月1回、計12回開催しました。宗教研究会は、前年より始めた「都市と旅－巡礼・布教－」を、外部の研究者の協力をえて2回開催しました。夏期特別講座「教学と現代」の第3回目を「天理伝道学の“今”を考える」をテーマに開催しました。

天理スポーツギャラリー展は、第6回目として「武道：剣道、弓道、空手道、合気道、馬術、アーチェリー、レスリング」をとりあげ、研究所で企画・運営を行いました。

調査については、戦前戦中の中国伝道調査を香港、台湾において実施し、アフリカのコンゴにおける伝道調査も行いました。ラテンアメリカに関しては、国内においてインフォマントへのインタビューを実施しました。

出版物として、定期刊行物の「グローバル天理」(月刊)、「Tenri Journal of Religion」(年刊)、「おやさと研究所年報」(年刊)を発行、逐次刊行物として「グローバル新書」第6巻『きりしたん史再考-信仰受容の宗教学-』、「伝道参考シリーズ」第14巻『大和医院への思い』、第16巻『逸話篇に学ぶ生き方2』を発刊、さらに、前年度の共同研究テーマである「戦争と宗教」を単行本『戦争と宗教』として発刊しました。

【天理参考館】

教祖百二十年祭特別展「火のめぐみ」(1月～8月)、同「正倉院宝物のルーツと展開」(9月～12月)の2回の特別展、および「ワークショップ“織物教室”成果報告展」(1月～3月)を開催しました。ほかにトーク・サンコーカン、ワークショップに加え、2回の天理ギャラリー展を開催し好評を得ました。

また、考古美術・生活文化資料の収蔵品および研究用図書の実態を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。出版物として天理参考館報、特別展図録、資料案内シリーズを刊行しました。

広報としては、ホームページ、マスコミ、ポスター等のほか、新たに「天理参考館ニュースレター」を発行するなど、館活動の情報の発信を継続して行いました。その他、資料貸出、資料写真掲載の協力、博物館実習を実施しました。

【天理高等学校第一部(全日制)】

学校案内・ポスターなどの内容を充実させ、参加者へ配布する小物を作成するなどして学校説明会を二度実施し、受験生確保にむけた広報活動に積極的に取り組みました。

国公立大学や難関私立大学への合格を目的とした、塾との提携による特設の課外講習や毎年百名ほどの生徒が参加して行われる夏季休業中の琵琶湖畔での合宿勉強会を継続

実施しました。

授業の充実のための研究授業や、外部から講師を招いての全体研修会を数度にわたり開催しました。更に、教員の資質向上を目的として、奈良県立教育研究所や東京八王子の私学教育研究所、大阪の私学会館で行われる研修に多数の教職員が参加をしました。

校内の自転車置場を増設しました。これにより、自転車通学の範囲を広げることができ、生徒の通学の便宜と安全が向上しました。校舎内では、職員室の放送設備の取替え、デジタル印刷機の買い替え、百周年の準備に向けてデジタルカメラ、デジタルムービーなどの機材購入などを行いました。

また、ラグビー部、ホッケー部、柔道部、水泳部、野球部、吹奏楽部など、例年通り活躍を続けています。これらの校名発揚に大きな役割を果たしている部活動を支援するため、グラウンドの整備や器具の補充、楽器の購入や修理、部室の整備などを行いました。

更に本校教育の中核であり、信条教育の場である各学寮の環境整備のため、北寮、東寮、火水風寮、白球寮、勾田寮などの床張替え、個々の部屋の改修、自習室の改良、食堂、トイレの整備などを行いました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

初めてのオープンスクール（公開授業）を11月25日に実施しました。4時の受付開始で、部活動終了の9時半頃まで、500名余りの方の来校がありました。入学試験時の面接や作文にその反響が伺われますので、毎年実施して行く予定です。

習熟度向上を希望する者に対しての基礎講習については、今年度から各学期末考査1週間前より実施することに変更しました。

なお、本年度より普通科の授業をすべて本校舎で行うことになりました。芸術3教科も含めて、第二部の授業はすべて本校舎と第4別館（介護福祉科）のみ使用となり、学習環境が改善されました。

7月の家庭学習期間に警察の協力を得て女子生徒を対象に下校時の防犯対策等についての安全教育を行いました。これまでは隔年でしたが今後は毎年行うことに改めています。また、全生徒を対象に、制服を清楚に着こなす工夫などについて専門家によるセミナーを10月に実施しました。今後も継続予定です。

信条教育の充実には教職員の姿勢が基本となることから、平成18年4月より、全教職員が2時の夕礼のはじめに「おふでさき」拝読を行うことにしました。

学校職員および各寮職員対象の生徒指導部研修会を5月に実施しました。また、各寮の幹事を対象にマナー・信条教育などの研修会も数回実施しました。

【天理中学校】

体育館下のトイレの改修、2・3年生駐輪場の増設、空調機の追加設置（技術科教室・特別教室棟等）等、教育環境の整備を昨年を引き続いて行いました。

また、一昨年度から検討していたカウンセリングルームが本年度完成しました。更に、別室登校生のための部屋も職員室の隣に設置することができるよう改修し、心のケア体制を一段と進めることができました。

自己点検評価については、学校経営診断カードによるアンケート調査（教員対象）を実施しました。結果は今後に活かしていく予定です。

【天理小学校】

より確かな学力を身に付けさせるため、始業前20分を「天小タイム」として、基礎基本の徹底をはかりました。1年目の成果と反省点をふまえ、来年度も継続します。

従来取り組んできた、授業力を高めるための研修をさらに推進させました。とりわけ、初めて取り組んだ「模擬授業」は、全員が参加でき実りの多いもので、来年度は、模範授業と合わせて、さらに研修を推進していきます。また、学校通信を多く発行し、保護者との連携をはかりました。

児童の安全を考慮して、児童の下校を北門からに統一しました。そのため、北門を改修し小門を設置しました。また、プールの改修、溝蓋の塗装、校庭南出入口側溝の改修なども行いました。

自己点検評価については、教職員を対象に「学校運営自己評価」によるアンケートを実施しました。今後も改善を加えながら実施します。

【天理幼稚園】

天理幼稚園の看板を真柱様にご揮毫頂き、3月7日にかけて頂くセレモニーを全職員と全園児でさせて頂きました。これは平成17年度に創立80周年を迎えさせて頂いたのを契機に実現したものです。

園内放送用設備を更新し、新たな放送用総合設備を設置しました。また、遊戯室の暗幕を新しいものにとりかえました。

子育て支援の一環として、来年度入園予定児とその保護者を対象とした未就園児保育を月1回（土曜日）実施しました。

自己点検評価については、幼稚園協会の項目に準じたアンケート調査（教員対象）を実施しました。結果は今後に生かしていく予定です。

3. 財務の概要

(1) 平成18年度決算の概要

平成18年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

○ 資金収支計算

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,563,703	3,565,348	△ 1,645
手数料収入	100,588	95,120	5,468
寄付金収入	3,401,000	3,401,000	0
補助金収入	1,374,281	1,396,862	△ 22,581
資産運用収入	41,410	42,788	△ 1,378
資産売却収入	4,240	4,240	0
雑収入	350,642	353,622	△ 2,980

前受金収入	621,934	660,607	△ 38,673
その他の収入	139,881	139,882	△ 1
資金収入調整勘定	△ 967,946	△ 983,209	15,263
前年度繰越支払資金	5,607,167	5,607,168	△ 1
収入の部合計	14,236,900	14,283,428	△ 46,528

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6,872,698	6,878,413	△ 5,715
教育研究経費支出	1,287,233	1,226,148	61,085
管理経費支出	333,367	322,067	11,300
借入金等利息支出	12,200	12,200	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	95,460	84,025	11,435
設備関係支出	221,357	237,696	△ 16,339
資産運用支出	6,911	7,197	△ 286
その他の支出	865,768	865,931	△ 163
資金支出調整勘定	△ 1,159,177	△ 1,263,132	103,955
次年度繰越支払資金	5,601,083	5,812,883	△ 211,800
支出の部合計	14,236,900	14,283,428	△ 46,528

収入の部では学生生徒等納付金収入がほぼ予算額どおりの収入となりました。手数料収入は見込みを下回り、予算比では5.44%の減額となっています。寄付金収入は(宗)天理教より34億円、その他の寄付金が100万円ありました。補助金収入は私立大学経常費補助金が見込みより上回ること等から予算より増額となっています。雑収入は私立大学退職金財団等の交付が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の86億5979万円より約2億円増加して88億5898万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では142億8343万円となりました。

支出の部では人件費がほぼ予算どおりとなりましたが、多数の停年退職者により退職金支出が前年度に比べ5億1631万円増加し、前年度比9.75%の増額となりました。施設設備の整備・改修としての主な支出は、1. 大学体育学部陸上競技場改修、2. 大学総合体育館室内プール深度可変設備工事、3. 大学PC教室更新、4. 大学3号棟トイレ改修、5. 大学創設者記念館天井漆喰補強工事、6. 大学柚之内ふるさと寮寮生室改修、7. 図書館照明設備更新、8. 高校トラック購入、9. 中学校技術棟エアコン設置、10. 中学校柔道場床改修及び畳交換、11. 中学校体育館下トイレ改修等です。また、大学野球部寮新築工事のうち平成18年度分として7377万円を執行しました。日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算通り1億円、同利息分が1220万円です。資金支出は合計で142億8343万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は58億1288万円となりました。

○ 消費収支計算

(単位：千円)

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,563,703	3,565,348	△ 1,645
手数料	100,588	95,120	5,468
寄付金	3,411,530	3,410,852	678
補助金	1,374,281	1,396,862	△ 22,581
資産運用収入	41,410	42,788	△ 1,378
雑収入	350,642	353,622	△ 2,980
帰属収入合計	8,842,154	8,864,592	△ 22,438
基本金組入額合計	△ 416,800	△ 391,998	△ 24,802
消費収入の部合計	8,425,354	8,472,594	△ 47,240

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6,878,698	6,729,514	149,184
教育研究経費	2,006,173	1,990,639	15,534
管理経費	439,297	367,831	71,466
借入金等利息	12,200	12,20	0
資産処分差額	10,340	19,023	△ 8,683
予備費			
消費支出の部合計	9,346,708	9,119,207	227,501

当年度消費支出超過額	921,354	646,613	
前年度繰越消費支出超過額	5,543,334	5,543,334	
翌年度繰越消費支出超過額	6,464,688	6,189,947	

《前記の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比0.25%増の8億8865万円（前年度比では1.29%〈1億1328万円〉の増）となりました。基本金組入額合計が、予算比5.95%減の3億9200万円となり、消費収入合計は予算比0.56%増の8億47259万円（前年度比では16.83%〈12億2082万円〉の減）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学の同窓会組織であるふるさと会等より図書の受贈があり、寄付金は3億1085万円（前年度比では5.88%〈2億1302万円〉の減）となりました。

消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額8億3880万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は1億4890万円となっています。教育研究経費には

7億236万円、管理経費には3424万円の減価償却費を含み、消費支出の部合計では予算比2.43%減の91億1921万円（前年度比では4.20%〈3億6789万円〉の増）となりました。

当年度消費収支差額は6億4661万円の消費支出超過額（前年度は14億6578万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は61億8995万円となりました。

○ 貸借対照表

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	28,053,888	28,548,473	△ 494,585
有形固定資産	26,066,475	26,564,017	△ 497,542
その他の固定資産	1,987,413	1,984,456	2,957
流動資産	6,129,653	5,755,806	373,847
資産の部合計	34,183,541	34,304,279	△ 120,738

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,856,456	2,105,355	△ 248,899
流動負債	2,058,299	1,675,522	382,777
負債の部合計	3,914,755	3,780,877	133,878

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	35,670,500	35,278,635	391,865
第3号基本金	138,233	138,101	132
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	36,458,733	36,066,736	391,997

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 6,189,947	△ 5,543,334	△ 646,613
消費収支差額の部合計	△ 6,189,947	△ 5,543,334	△ 646,613
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	34,183,541	34,304,279	△ 120,738

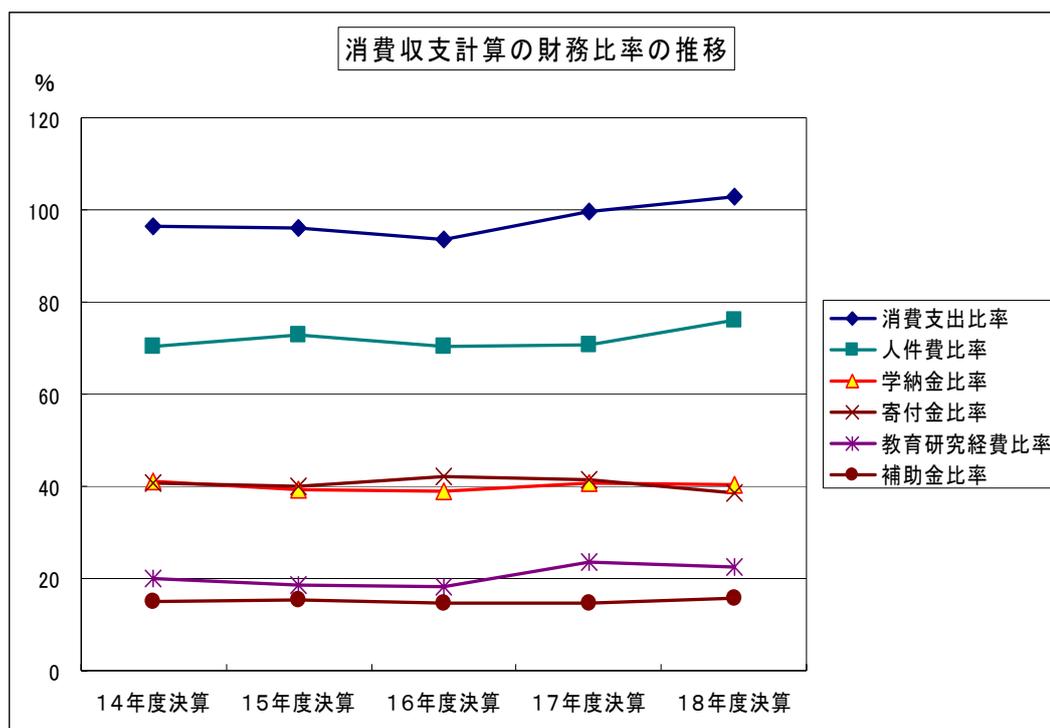
《貸借対照表は、平成 19 年 3 月 31 日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示しています。》

資産の部では有形固定資産が施設設備の充実及び受贈等による増加、資産の除却による減少及び減価償却により前年度末から 4 億 9 7 5 4 万円減、その他の固定資産は有価証券の減、退職給与引当資産等の増により差引 2 9 6 万円増額しています。流動資産は現金預金の増及び未収入金の増により 3 億 7 3 8 5 万円の増となり、資産の部合計では差引 1 億 2 0 7 4 万円減の 3 4 1 億 8 3 5 4 万円となりました。負債の部では借入金、退職給与引当金、前受金のそれぞれが減少しましたが、未払金が増加したので差引 1 億 3 3 8 8 万円増の 3 9 億 1 4 7 6 万円となっています。基本金の部では 3 億 9 2 0 0 万円の基本金組み入れを行いましたので、3 6 4 億 5 8 7 3 万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の 6 1 億 8 9 9 5 万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は 3 0 2 億 6 8 7 9 万円となりました。

(2) 過去 5 年間の推移

財務状況について、過去 5 年間の財務比率によりその概要を報告します。



消費収支関係比率

(単位：%)

比率項目	14年度決算	15年度決算	16年度決算	17年度決算	18年度決算
消費支出比率	96.6	96.1	93.5	99.6	102.9
人件費比率	70.4	72.8	70.4	70.7	75.9
学納金比率	40.9	39.3	38.9	40.6	40.2
寄付金比率	40.7	39.9	42.2	41.4	38.5

教育研究経費比率	20.0	18.4	18.2	23.5	22.5
補助金比率	15.0	15.4	14.6	14.5	15.8

《上記比率は消費収支の各科目の帰属収入（法人の負債とらない収入）に対する割合です。》

16年度までの消費支出比率は現物寄付金等を含めた帰属収入の増により減少傾向でしたが、17年度より帰属収入の減等により上昇し、18年度では消費支出が帰属収入を2.9ポイント上回りました。人件費比率は17年度までは横ばい状態でしたが、18年度決算においては停年退職者による退職金の増加により、前年度に比べて5.2ポイント上がり、75.9%となりました。学納金比率はほぼ横ばい状態で推移しています。寄付金比率は大学80周年記念事業の寄付募集を終了したこと等により、2.9ポイント下げています。教育研究経費比率は17年度より補助活動事業に係る減価償却額の配分を見直したことから教育研究経費が増加し、過年度の比率より上がりました。18年度は金額が若干減少し前年度より1ポイント下げています。補助金比率は近年の下がり傾向から挽回し、前年度の補助金額より約1億2900万円増加し1.3ポイント上昇しました。